



# Mito City International Association

(財)水戸市国際交流協会機関紙

第30号

2008.3.

## 第28回国際親善姉妹都市アナハイム市親善訪問 及びアメリカ文化・行政視察団



2007年11月11日から18日までの8日間、加藤浩一水戸市長を団長、伊藤充朗市議会議長を副団長とした総勢28名の親善訪問団が、水戸市の国際親善姉妹都市であるアナハイム市をはじめ、アメリカ各都市を訪問してきました。

アナハイム市では、プリングルアナハイム市長をはじめ国会議員や市議会議員、ミスアナハイムなどたくさんの市民の歓迎の中、水戸橋にて「MITO-WALK(案内板)」の除幕式が盛大に行われました。また、アナハイム市姉妹都市協会の皆さんの案内でアナハイム市庁舎をはじめコミュニティセンター、新警察署、タイガーウッズ学習センター、バスケット図書館、そしてコンベンションセンターと多くの施設を視察し、教育、観光等への施策について理解を深めました。30周年祝賀ムードの中、リニューアルされた美術館「ミュゼオ」にて盟約記念の銘板が披露され、その後の歓迎レセプションでは、両市の長年にわたる交流を祝いつつ、友好親善を深めました。

### 【日 程】

日次	月日(曜日)	地名	日 程
1	11/11(日)	成田発、 アナハイム着	空路、アメリカへ ゲティーセンター視察
2	11/12(月)	アナハイム	水戸橋での「MITO-WALK」除幕式出席 コミュニティセンター・新警察署、 タイガーウッズ学習センター、バスケット図書館視察 アナハイム市姉妹都市協会主催昼食会
3	11/13(火)	アナハイム	アナハイム市役所・議場、コンベンションセンター視察 新美術館「ミュゼオ」での盟約記念銘板披露 セレモニー出席 アナハイム市主催夕食会出席
4	11/14(水)	フェニクス/セテ	チェース・フィールド、オーク・クリーク視察
5	11/15(木)	セドナ	ヘルロックでハイキング体験 テラキ・パーク・アップ・タウン視察
6	11/16(金)	フェニクス	アウトレット、ヘリテージ・スクエア視察
7	11/17(土)	フェニクス発 サンフランシスコへ	サンフランシスコ空港へ
8	11/18(日)	成田着	空路、成田へ 成田到着、水戸市役所へ

## クラシック音楽でめぐるヨーロッパの街 4

今年で4回目を迎えたクラシック音楽講座。今回は、水戸室内管弦楽団が3回目の欧州公演で訪れる5つの都市のうち、パリ・ミュンヘン・ウィーン・マドリードに焦点を当て、それぞれの街が歴史の中で奏でた音楽について水戸芸術館音楽部門の学芸員が紹介しました。

第1回 1月30日(水)  
【もうひとりのシュトラウスを生んだ街—1890～1950 ミュンヘン—】  
講師 関根 哲也(水戸芸術館音楽部門学芸員)

第2回 2月6日(水)  
【新ウィーン楽派の誕生—1900～1930 ウィーン—】  
講師 中村 晃(水戸芸術館音楽部門学芸員)

第3回 2月13日(水)  
【ルイ14世が踊り、マリー・アントワネットが愛した音楽—1643～1789 パリ—】  
講師 矢澤 孝樹(水戸芸術館音楽部門主任学芸員)

第4回 2月20日(水)  
【アランフェス協奏曲の光と影—1920～1950 マドリード—】  
講師 矢澤 孝樹(水戸芸術館音楽部門主任学芸員)



### ♪講師から♪

4期目を迎えた本講座ですが、今回も、定員をはるかに上回る数の応募者の方々の熱意に支えられ、無事終えることができました。音楽・映像・スライド・資料を組み合わせ、名曲を楽しみつつ、その背後にどのような歴史のドラマがくり広げられていたかを体験していただくこの講座。音楽と社会が地続きであることの手ごたえを感じていただく、そのささやかな一助となれたなら、嬉しく存じます。

さて今回の内容を、以下にかいつまんでご紹介します。第1回(1月30日)は「1890～1950 ミュンヘン:もうひとりのシュトラウスを生んだ街」(お話:関根哲也)。「サロメ」〈エレクトラ〉などの傑作オペラや「ツァラトゥストラかく語りき」などの大規模な管弦楽曲で有名なドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウス。モーツァルトやワーグナーも愛した歴史と文化の街ミュンヘンが生んだ天才作曲家が、20世紀前半の激動のドイツを生きたその軌跡をたどりました。第2回(2月6日)は「1900～1930 新ウィーン楽派の誕生」(お話:中村 晃)。19世紀末から20世紀初頭にかけて、革新的な思想家や芸術家を生んだウィーン。その潮流の中で、20世紀音楽の新しい方向を示した「新ウィーン楽派」の3人—シェーンベルクとその弟子のベルクとウェーベルン—の活動を紹介しました。第3回(2月13日)は「1643～1789 パリ:ルイ14世が踊り、マリー・アントワネットが愛した音楽」(お話:矢澤孝樹)。ブルボン王朝が支配する絶対王政下のパリそしてヴェルサイユを華麗に彩った音楽にスポットを当てました(ここでは、水戸室内管弦楽団が訪れるもうひとつの街フィレンツェの同時代の状況にも触れました)。

そして第4回(2月20日)は「1920～1950 マドリード:〈アランフェス協奏曲〉の光と影」(お話:矢澤孝樹)。ファリャそしてロドリゴ—20世紀スペインの2人の偉大な作曲家の生涯をたどりながら、スペイン市民戦争の悲劇の中で生まれた名曲〈アランフェス協奏曲〉の謎に迫りました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださり、資料準備等に大いに力を貸して下さった水戸市国際交流協会の皆様に、心よりお礼申し上げます。

矢澤孝樹(水戸芸術館音楽部門主任学芸員)



## “ជំរាលស្ទឹង” かんボジアから こんにちは

日本語ボランティアグループ『オルビス』に所属する山田 野絵さんは、青年海外協力隊の一員としてカンボジアの大学で日本語を教え、約2年の任務を終え帰国しました。山田さんの目に映った『カンボジア』の魅力や現地での体験をシリーズでお伝えします。

### かんボジアって?

カンボジアがどこにあるか知っていますか。東南アジアのタイとベトナムに挟まれ、面積は日本の半分ほどで、人口は東京都と同じくらい。でも、日本と違うところは子供が多いこと。日本の戦後と同じです。ところで、カンボジアと聞いて思い浮かぶのはどんなイメージでしょう。世界遺産のアンコールワット。戦争。地雷。貧しい国。直行便も飛んでいないし、アンコールワットがあるとはいえ、お隣のタイやベトナムに比べ、訪れる観光客も多いとは言えないカンボジアは、日本人にとって、気持ち的にちょっと遠い国という感じでしょうか。そんなカンボジアに青年海外協力隊として派遣されることになり、2年余りを過ごすことになるのは、私にとっても思いもよらないことでした。東南アジア希望と出しておきながら、カンボジアに決まったときには絶句してしまったほど。治安面など様々な不安がありました。しかしながら、住めば都。今では、カンボジアは心の故郷となりました。私の活動先は首都プノンペンの王立大学日本語コース。そこには、カンボジア人日本語教師が四名と協力隊員二名。コースの学習者は二百数十名。学生たちはみんな外見も中身も中学生のように、かわいい。カンボジア人日本語教師たちは全員30歳前後の男性ですが、「カンボジア人って」と一言でくれないほど個性豊か。とても楽しい職場でしたが、時には青筋が立つほど頭に来ることも。でも、それが異文化のせいなのか、性別のためなのか、はたまた性格のせいなのかは、今もって分かりません。ただ、海外で暮らしてみて、働いてみて感じたことは、当たり前ですが、みんな同じように笑い、泣き、怒り、傷つき、悲しむ人間なんだなあとということでした。悲惨な過去を感じさせない、踊りが大好きな明るいカンボジアの人々。是非、訪れてみてください。



### かんボジアの習慣

飛行機から見る雨季のカンボジアの大地は、水浸し。河が大蛇のごとく地を這いまわり、雨季に逆流するメコン河のためにトンレサップ湖は、まるで海のように乾季の3倍の大きさになります。そんな水に恵まれたカンボジアの人々は水が大好き。まず、日に3回の水浴び。カンボジアでも12月ごろは少し肌寒いなぁと感じることがありますが、そんな日でも彼らは朝・昼・晩の水浴びを欠かしません。ですから、この時期は、風邪をひく人がとても多くなります。汗かいていないのだから昼に浴びなくてもいいのでは、と思っても、彼らは浴びないと気が済まないようです。ところで、カンボジアにはあまり娯楽がありません。映画館もありますが、ハリウッド映画は来ませんし、カンボジア産のホラー映画ばかりで、みんなあまり行かないようです。そこで、休日は老若男女、散歩です。プノンペンなら河沿いをブラブラ。ちょっと時間がある日は、郊外の川や湖へ。もうちょっと長い休みには、カンボジア唯一のビーチリゾート、シハヌークビルへ。とにかく、水がある所に集まってきます。私の活動先である日本語コースの遠足でも、カンボジア人の同僚は、「そこは水がないからダメです」と却下。ではさぞやカンボジア人は泳ぎが上手なのでしょう、と思うのですが、水辺で彼らがすることは、洋服のままドボン。そして、友達とキャーキャー言いながら、バシャバシャ水をかけ合うこと。そして、水辺の東屋のハンモックで昼寝。スクールが来れば、街中でも子供は外に出て大はしゃぎ。水があれば、それだけで楽しい。娯楽が少なくても、カンボジアの人々は充分楽しんで暮らしているようです。



## ◆青少年のための国際理解講座

12月8日(土) 韓国の最新情報、徴兵制や家族の絆など文化の違いを韓国人留学生の講話やトポキ作りを通して楽しく学びました。



## ◆年末パーティー

12月15日(土) 外国人と市民が参加し、自国の紹介や日本文化の体験、ゲームなど、いろいろな国の料理も味わいながら、楽しく交流しました。



## ◆中国 食と文化の交流会

12月16日(日) 中国の少数民族の文化や習慣について学び、中国料理を食べながら楽しく交流しました。



## ◆外国人のための日本料理教室

1月27日(日) 日本料理店松川の溝口忠詔さんを講師に迎え、鍋焼きうどんやさといもの煮ころがしなどプロの味を楽しく学びました。



## ◆外国人のためのスキー教室

2月22日(金) 猪苗代スキー場でスキー教室を行いました。スキー初体験のみなさんも午後には滑れるようになり、楽しい1日を過ごしました。



## ◆親と子の国際講座

2月24日(日) 自分たちがどれだけ地球に影響を与え、何が出来るかなどを、クイズやエコバッグ作りをとおし、親子で考えました。



◇機関紙へのご意見や感想をお待ちしています。

開館時間：午前9時から午後9時まで  
休館日：月曜日、祝日

〒310-0024 水戸市備前町6-59  
水戸市国際交流センター内  
(財)水戸市国際交流協会  
Tel:029-221-1800 Fax:029-221-5793  
<http://www.mitoic.or.jp/>  
E-mail:mcia@mito.ne.jp

### 水戸市国際交流センター案内図 Area Map & Transportation Guide

